

# ICTが生み出す協働学習に 期待しiPadを使う授業を実現

生徒がiPadをもち、授業はデジタル教材で学び、家ではFacebookで教え合う…。そんな未来を先取りした教育を実践する飯島先生に話を聞きました。

主に大学の研究者が、審査に応じて研究補助を受けられる科学研究費助成事業（通称、科研費）。実は小・中・高などの学校の先生も「奨励研究」という枠で、10～100万円の科研費を申請できる。

飯島先生はこの奨励研究に2回採用された。1回目は2009年。「物理のデジタル問題集を作り、基礎学力の定着に役立てたい」という希望をかなえた。そして2回目が今年、2012年だ。3学年で物理を選択した5人の生徒全員にiPadを支給した。「自分自身は私立高校出身ですが、公立学校こそ、日本の教育の基盤です。iPadで授業なんて公立高校では無理とあきらめず、やればできることを後輩に示したいという気持ちもありました」。

## 主体的に学ぶ意欲を 引き出す環境を整える

届いてすぐに、5人全員が自宅の無線LANでiPadをネットにつなげ、Facebookにグループアカウントを作った。現在はFacebook上で課題の配付や提出などの

やりとりを行っている。

今回の研究の目的は協働学習による家庭学習の定着にある。帰宅後もFacebook上で互いに教え合い、仲間との信頼関係を築きながら勉強の面白さに目覚めてほしいのだという。「生徒の順応性の高さは予想以上。今後の成長が楽しみです」。

## やりたいこととやるべきことの はざまで悩むことも

3年前から進路指導部長を務める飯島先生。「役職に就いてから、なにかと校務が増えました。まだまだ授業や生徒との一对一の付き合いを主軸に置きたいのが本音です。今は校務と他の仕事とのバランスに悩んでいるのが正直なところです」。

進路指導室にいても、雰囲気は部長というより兄貴分という感じ。生徒に半ばあきれ顔で「先生、本当に楽しそうに働くな～」と言われたこともある。「若手から中堅へと立場が変わりつつありますが、生徒にとっていいと思うことを全力で取り組む姿勢はもち続けたいと思います」。

イケてる若手  
センセイ!!  
vol.4



和歌山県立伊都高校  
飯島輝久先生 (36歳)

大阪・私立清教学園高校、和歌山大学教育学部を経て和歌山大学大学院教育学研究科修士課程修了。高3、11月の模試で物理が0点だった苦い経験をバネに、わからない苦しさをわかる喜びに変える物理教師を目指す。趣味は毎日の夕飯を美味しくすること。



ある晩、Facebook上で、生徒から定期テストの質問があったので、それに対して先生が手書きの問題をアップし解説した様子。別の生徒も同時にやりとりに加わった。

## fan message



飯島先生がいていいに相談に乗るので、進路指導室に来る生徒は絶えません。でも毎日17時過ぎると夕飯の話題に(笑)。本格的な手料理の話に心とみます。文化祭の教員の出し物にも全力投球。そんな緩急のつけ方もお手本です。(伊都高校進学主任・高橋洋次先生より)